

納涼盆踊り

流山おおたかの森

JAとうかつ中央流山女性部・青壮年部

2023年8月19日(土)
午後4時～午後8時
 (盆踊りは、午後6時～午後8時)

会場 森のまち広場
 (流山おおたかの森駅前南口都市広場)

主催 JAとうかつ中央流山女性部
 JAとうかつ中央流山青壮年部
 とうかつ中央農業協同組合

後援 流山市 協力 流山おおたかの森S・C

写真はイメージです。
 開催予定のイベントは、変更となる場合がございます。
 *雨天の場合、一部企画を中止する場合があります。
 *荒天の場合は中止となります。
 お問い合わせ：JAとうかつ中央流山経済センター 04-7150-2255 (代)

※ 当日は会場周辺の道路・駐車場の混雑が予想されます。公共交通機関をご利用ください。

「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」

もっと地域農業を元気に
とうかつ中央 自己改革 News

JAグループ千葉キャラクター
 チパンダくん

花卉農家を支援 サイネリア届ける

2月・3月、当JAは新型コロナウイルスの感染拡大で、卒業式で飾られるサイネリアの需要の落ち込みが心配されている管内生産者から3,000鉢のサイネリアを買い取り、管内3市の小中学校や保育所、病院などに届けられました。



地場農産物を販売

6月25日、当JAでは常盤平支店で野菜即売会を開きました。枝豆など旬の地場農産物が並び、会場は新鮮な農産物を買求める人で行列ができるほど賑わいました。買い物客は、品種の違いや食べ方を生産者に聞くなど、消費者と生産者の交流の場にもなりました。



援農ボランティア

4月11日、鎌ヶ谷市援農ボランティアの開校式が行われました。5月10日に行われた梨の摘果作業では、ボランティア1年目10名、2年目6名が参加し、生産者の説明を受け、熱心にメモを取って作業を実施しました。



梨の勉強会

6月30日、当JAと鎌ヶ谷市梨業組合員13名は、埼玉県菖蒲町篤農家と埼玉県農業技術研究センターを訪れ、災害対策も兼ねて国内産を大切にしようという考えのもとに、梨についての勉強会に参加しました。



特産物プレゼントクイズ!

正解者の中から抽選で、**30名様**にJAとうかつ中央管内特産の**梨1箱**(5kg箱詰め)をお送り致します。答えて当てよう!

Q この中で夏が旬の果物は何でしょうか?
 ① 梨 ② りんご ③ メロン

応募方法
 官製はがきに
 ①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名(ふりがな)⑤年齢⑥電話番号⑦職業⑧本誌をご覧になったご感想と今後本誌で取り上げて欲しい話題をご記入の上、下記の宛先までお送りください。

応募先
 〒271-8620 (私書箱)
 JAとうかつ中央「ふれあい」プレゼント係
 応募の締切 2023年8月28日(月) (当日消印有効)

※郵便料金の過不足にご注意ください。ご当選の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。お寄せいただいた個人情報、本抽選のみに利用するものであり、他の目的には利用いたしません。

応募方法
 官製はがきに
 ①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名(ふりがな)⑤年齢⑥電話番号⑦職業⑧本誌をご覧になったご感想と今後本誌で取り上げて欲しい話題をご記入の上、下記の宛先までお送りください。

応募先
 〒271-8620 (私書箱)
 JAとうかつ中央「ふれあい」プレゼント係
 応募の締切 2023年8月28日(月) (当日消印有効)

※郵便料金の過不足にご注意ください。ご当選の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。お寄せいただいた個人情報、本抽選のみに利用するものであり、他の目的には利用いたしません。

新しい都市型農業のモデリングを築き上げたい!

掲げ 身近で活躍する地域農業の「担い手」

森田農園
 流山市名都借
 もりた あきら
 森田 昌さん(31歳)

森田農園、流山市で旬の新鮮な野菜をお客様にお届け!

森田農園では、季節の野菜を年間80品目栽培しています。販売方法はマルシェ、八百屋、契約飲食店、イベント出店、インターネット販売など多方面で行っています。加工品の販売は焼きいもや焼き栗などを中心に行っており、お客様に喜んでいただける商品を提供しています。さらに、人を呼ぶ農園にしたいと思い、月額制の畑レンタルを行っています。

就農から6年目、前職は飲食店で3年間程働いていました。農業を始めたきっかけは、将来的に飲食店での独立をしたいと考えていた際に、祖父母が行っていた農業が体力面で縮小していたことです。幼少期から見ていた大切な畑の作付けが縮小していることに寂しさを感じたことと、食に携わる仕事をしたいとの思いから農業を始めました。現在、祖父母、母、パート6人と農作業を行っています。

農園でのこだわりは品種選択です。ただ品種を多く作るのではなく、おいしさや鮮度を維持できる野菜だけを栽培しています。中でもサツマイモ(シルクスイート、紅はるか)に力を入れており、夏は委託製造して焼きいものジェラート、冬は焼きいもにしてお客様に一年中おいしく食べられるようにしています。

今後の目標は農園内に四季を感じられるパーベキュー場をつくり、より多くの方々に喜ばれる農園にしたいです。

▲ 森田農園さんの焼きいものジェラート

▲ マルシェの様子

▲ ホームページ詳しくは「森田農園」Webサイトをチェック!!

自分たちの代で農業を絶やさせたくない!

掲げ 身近で活躍する地域農業の「担い手」

田邊農園
 鎌ヶ谷市右京塚
 たなべ はやと
 田邊 隼土さん(28歳)

安全、安心なものをお客様に届けたい!

就農から4年目。農業高校に通い、卒業後は料理専門学校に進学しました。卒業後に3年間飲食業で働いた後、農業を継ぐことを決意しました。

農作業は祖父母、両親、弟の6人で行っています。栽培している野菜は様々で多品目栽培を行っています。理由としては価格変動に左右されないよう、収益を安定させるためです。

夏は主にとちものこし、きゅうり、トマト、枝豆を栽培しており、隼土さんにとちものこしを管理し、出荷しています。とちものこしの品種はミルキースイーツ、ゴールドラッシュを栽培しており、農薬などの使用を最小限に抑え、安心、安全な野菜を栽培しています。

販売方法は旬の野菜を近隣のスーパー(5ヶ所)、市場(2ヶ所)で販売しています。12月から5月までは直売所(あきひめ、やよいひめ、チーバベリー、かおり野)を販売しています。

高校の授業とは異なり、栽培する上で天候に左右されることや畑の状態によって栽培方法が変わるなど、大変なことも多いです。しかし、形や品質にこだわった野菜をお客様に提供できることがやりがいつながっています。

近隣で農業に従事されている方が少ないので、弟と共に農業を続けることで、家族の農業だけでなく、地域の農業も守りたいと思っています。

▲ 直売所で販売されているいちご

▲ 隼土さんが栽培管理しているとちものこし

▲ 農作業を行う隼土さん

▲ いちごを販売する直売所